# にいはり N

土浦市立新治学園義務教育学校 学校だより
平成３１年２月１日発行　第９号
児童・生徒数５４１名　ＰＴＡ会員４１５名

## インフルエンザ猛威をふるう

新治学園義務教育学校ＨＰもぜひご覧ください！
http://www.tsuchiura.ed.jp/~ngaku/nc2/html/htdocs/



８年A組の学級閉鎖を筆頭に，７年Ｂ組，２学年，３学年，６学年が次々と学級・学年閉鎖になりました。週末の部活動も２週続けて停止となり，練習試合も中止となりました。
給食も前を向いての喫食を実施し，休み時間毎の換気、うがい，手洗いを励行中です。



## 新学期スタート！



１月８日（火）始業式が行われ，新学期がスタートしました。
児童生徒が，落ちついた雰囲気で式に臨みました。これまで９年生が担当してくれていた校歌の伴奏と指揮は世代交代をし，８年生の渡引彩夏さんと，鈴木悠仁さんが務めました。本校は校歌を全校で二部合唱します。爽やかなコーラスが体育館に響きました。その後，児童生徒代表が３学期の抱負を発表しました。５年生の豊﨑琴美さんは，「あいさつ交わすことでみんなが気持よく生活できる雰囲気を作りたい。」と未来を語り，９年生来栖朱音さんは「支えてくれた周囲への感謝を忘れず，残り少ない時間を，大切な友達と過ごしたい。」と発表しました。

## 手をつなぐ子らの作品展





特別支援学級の児童生徒が，自立活動と生活単元の時間に作成した作品を「手をつなぐ子らの作品展」に出展しました。新治学園は，絵画、ろうけつ染めやしぼり染めに挑戦しました。



## 茨城の魅力は？（ＮＩＥ学習）

６年１組でＮＩＥ教育（新聞を使った学習）の授業が行われました。新聞を使って学習することで「よりよい社会に参画する資質や能力の基礎を養う」のがねらいです。数社の新聞を読み比べて、必要な記事や写真を切り取り、茨城県の魅力をＰＲするポスターをつくりました。取材には茨城新聞社より３名の方がいらっしゃいました。

**２月５日は新治学園義務教育学校の第１回創立記念日です。**

### ２月の学校行事予定

１日（金）９年実力テスト
３日（日）クリーン作戦
４日（月）あいさつ運動　委員会活動
５日（火）創立記念日
７日（木）クラブ活動
　　３年　博物館見学
８日（金）新１年生保護者説明会
１１日（月）建国記念の日
１５日（金）学年末ＰＴＡ
１６日（土）クリーン作戦予備日
１９日（火）４年６年　プラネタリウム体験
　　１年　新治幼稚園との交流学習
２０日（水）２１日（木）５～８年定期テスト
２７日（水）にいはりタイム
２８日（木）クラブ活動



# 新治学園義務教育学校

■開校までの歩み　土浦市教育委員会では、平成25年2月に「土浦市立小学校適正配置実施計画」を策定し、新治地区について、藤沢小、斗利出小、山ノ荘小の３つの小学校を統合し、新治中学校敷地内に施設一体型の小中一貫校を整備することと位置付けました。

平成26年5月には、開校に向けた各種の協議等を円滑に進めることを目的として、保護者、地域住民及び学校等を主体とする「新治地区小中一貫校開校準備協議会」を設立し、協議検討を行いました。

平成28年4月、学校教育法の一部改正が施行され、「ギムキョウイクガッコウ」が制度化されました。このため、土浦市立学校の設置及び管理に関する条例の一部を改正し、新治地区の施設一体型小中一貫校を「新治学園義務教育学校」としいて平成３０年４月に開校することになりました。

■校名　平成27年11月に、校名の公募を行い、130件（種類としては６４案）の応募がありました。

平成28年3月22日に開催された教育委員会で、教育委員会の方々による協議・検討の結果校名を「**新治学園義務教育学校**」と決定しました。

【選定の理由】・「新治」という名称を残していくことが大切である。
・新治村ができたとき「新しく」「治める」と表記したことには意味があると思う。歴史ある名称をなくすべきではない。
・「学園」という響きには「４つの学校が一緒になった」というイメージがある。
・小中一貫校の多くは「学園」という名称をつける流れが全国的にある。

■校章　平成28年８月～9月　デザイン案募集。１１０件の応募。その後、開校準備協議会総務部会の話し合いにより、６案を選定。



平成29年11月　市教育委員会により校章デザイン決定

【デザインの説明】・新治の頭文字「N」を図案化。ストライプは人の集まる様子、そして規則正しく「規律」、中心のリングはひとの輪「友情」を表現しました。

■校歌　平成29年10月26日の開校準備協議会において、校歌が決定しました。
作詞者は、新治中学校の前校長であり、現新治幼稚園園長の、中村隆氏。
作曲者は、土浦市を拠点とし、幅広い音楽活動に取り組んでいる関　隆浩氏。

【　歌詞に込められた意味　】

**一番　（始まり）・・・出会いに大切なのは、笑顔とあいさつ、そして目標をもつこと。**

新治の至る所に、薄桃色の桜の花が咲き始め、清々しい風にゆれながら、出会いの季節が始まる。自分の生を甲斐あるものにするのは、未来へと向かう希望である。それはまだ頼りないものだけど、友のようにいつも傍らに置いて、将来へと進んでいく。希望をもって取り組むことは、学校中に笑顔があふれるようになることである。様々な出会いから始まる**想い（自分、仲間、先生、家族、地域）**は遠く未来に向けての始まりである。

**二番　（成　長）・・・成長とは、知恵と勇気をもってがんばること。**

夏から秋にかけて、生物は大きく成長する。いつの間にかヒナが巣立って飛び立ち大空を飛んでいる。私たちも知恵と勇気をふりしぼって、自分を成長させなければならない。「心を奮わせ」とはそういうことである。その知恵と勇気の力をつないでいくこと、互いに切磋琢磨することで、個の力と集団の力が望ましい循環を成していく。知恵を出し勇気を振り絞って自他を磨いていくことの**想い**は、学校教育の根幹を支えるものである。

**三番　（実　り）・・・学びは豊かな実りへ。その実りに感謝すること。**

新治は山紫水明の地である。自然の実りが豊かであるように、学校教育の学びは、豊かな社会を創り出す学びでなければならない。学ぶことは頑張ること、努力と我慢をすることである。それができるのは、親の支えがあるから。生まれ育ったこの新治の地に感謝し、それを誇りにしよう。一生懸命勉強して頑張り続けることの**想い（自分、仲間、先生、家族、地域）**は、みんなの願いそのものである。やがて、卒業して離ればなれになっても、ふるさとを想う気持ちは同じである。学校はふるさとの象徴である。変わらないふるさとを心の糧にして今を生きよう。

https://www.youtube.com/watch?v=qDSWXyFSRKg&feature=youtu.be　校歌はこちらで試聴できます。